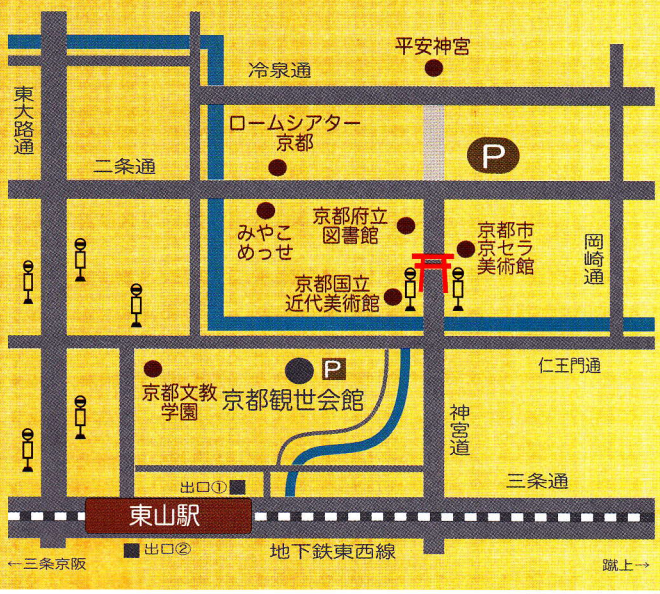
令和四年

片山定期能二月公演

令和4年月2月23日（水・祝）
午後1時開演（午後0時30分開場）
於／京都観世会館
［地下鉄東西線『東山』駅下車 徒歩約7分］

能　實盛　古橋正邦
狂言　仏師　茂山茂
能　鉢木　味方玄



京都観世会館
〒606-8344
京都市左京区岡崎円勝寺町44
tel.075-771-6114
fax.075-761-6005
HP http://www.kyoto-kanze.jp

▼▼ 9～17時 月曜休館
東隣にコインパーキングがございます。
［最初の一時間400円、以後30分200円］

片山定期能2月公演[No.72-1]

令和4年2月23日(水・祝)
午後1時開演[午後0時30分開場]

13:00

能　實　盛　—さねもり—

前シテ／老人 後シテ／斎藤別当實盛の霊		古橋　正邦
ワキ／遊行上人		福王　知登
ワキツレ／従僧		喜多　雅人
ワキツレ／従僧		中村　宜成
アイ／篠原の里人		山下　守之
笛	杉　市和	地謡　片山九郎右衛門
小鼓	吉阪　一郎	浦田　保親
大鼓	河村　太	分林　道治
太鼓	前川　光長	田茂井廣道
		深野　貴彦
後見	青木　道喜	河村　和貴
	梅田　嘉宏	大江　広祐
		河村浩太郎

——休憩10分——

14:55

狂言　仏　師〈大蔵流〉　—ぶっし—

シテ／すっぱ	茂山　茂
アド／田舎者	茂山千五郎
後見	山下　守之

15:20

仕舞　歌　占　キリ　—うたうら・きり—

シテ／渡會何某　大江　信行

巴　—ともえ—

シテ／巴御前の霊　片山　伸吾

雲林院　クセ　—うんりんいん・くせ—

シテ／在原業平の霊　片山九郎右衛門

弱法師　—よろぼし—

シテ／俊徳丸　大江又三郎

地謡　青木　道喜
河村　博重
田茂井廣道
河村　和貴

——休憩10分——

15:55

能　鉢　木　—はちのき—

前シテ／佐野源左衛門常世		味方　玄
後シテ／　〃		
ツレ／常世の妻		橋本　忠樹
前ワキ／旅僧		宝生　欣哉
後ワキ／西明寺入道時頼		
ワキツレ／二階堂某		宝生　尚哉
アイ／早打		鈴木　実
アイ／二階堂の下人		松本　薫
笛	杉　信太朗	地謡　武田　邦弘
小鼓	林　吉兵衛	橋本　礒道
大鼓	谷口　正壽	浦田　保親
		分林　道治
後見	片山　伸吾	深野　貴彦
	大江　信行	梅田　嘉宏
		大江　広祐
		河村浩太郎

17:35頃　終了予定

演目解説

能 實盛　上演時間：約1時間45分

遊行上人が加賀の国の篠原で説法をしていると、毎日聴聞に訪れる老人がいた。しかしその姿は上人にしか見えず、老人と言葉を交わしている姿は上人の独り言にとられ、他の里人達は不審に思っていた。ある日上人がその名を尋ねると、老人は「長生きをしてこの念仏の時に出会え、安楽国に生まれ変われたのではないかと喜んでいたのに、阿弥陀様のお導きである上人から名を問われるのは無念である」と答える。すると上人は、「そう言われるのは道理だが、罪を懺悔することによって悪心が善心に変えられることにもなるから、是非とも名乗りなさい」と老人に促す。やがて老人は、この地で討たれた斎藤實盛の霊だと告げて消えていく。
里人から實盛の討ち死にの有様を聞いた上人が、實盛の首を洗ったという篠原の池のほとりで弔っていると、白髪の老武者姿の實盛が現れる。實盛の霊は、黒く染めていた髪が首ごと洗われて元の白髪となったことや、錦の直垂(ひたたれ)を賜って出陣したこと、手塚太郎と戦って討ち死にしたことなどを語り、なおも回向を頼んで消え失せるのであった。
老武者の最期を色濃くしっかりと描いた作品で、動きの多い中に「老い」の本質を求める名曲である。

狂言 仏　師　上演時間：約25分

持仏堂を建立した田舎者が、本尊を求めに都に上り、物売りを真似て仏師を尋ねる。そこへすっぱが、自分こそが真仏師であるといって近づき、田舎者の注文を聞く。そして明日の今時分に、五条の因幡堂に置いておくことを約束する。翌日すっぱは田舎者に仏のある場所を教えると、自分は急いでその場所へ先回りし、仏になりすます。印相が気に入らない田舎者は、表へ回って仏師を呼ぶのだが……。。

能 鉢　木　上演時間：約1時間40分

旅僧が鎌倉に上る途中、上野(こうづけ)国佐野の辺りで大雪に遭い、一軒の家に宿を請う。留守番をしていた妻は主人の帰りを待つように言うが、やがて帰宅した主人は、見苦しい家だからと言って僧の申し出を断る。しかし妻の言葉に思い直して僧を呼び戻し、粟飯を炊いたり、秘蔵の鉢植えを火にくべたりして、精一杯のもてなしをする。感じ入った僧が主人に名を尋ねると、自分は佐野源左衛門常世と申す者で、今は一族の横領に遭ってこのように落ちぶれてしまったが、鎌倉に一大事があれば何をおいても馳せ参じる覚悟だと語る。その翌朝、僧は常世を慰め、名残を惜しんで立ち去る。
それからしばらくして、北条時頼の軍勢召集のお触れがあり、常世も痩せ馬に乗って駆け付ける。時頼は二階堂某に命じて常世を探し出させ、過日の僧は自分であると明かす。そして常世の言葉に偽りのないことを賞し、旧領地を戻すとともに、鉢木の御礼に禄の三ヶ庄を与える。常世は久しぶりに大きな喜びを得て、勇んで佐野へと帰って行くのだった。
「いざ鎌倉」の語源となったエピソードで、身分の高い者が姿を変えて旅をするという、時代劇に多く見られる展開と武士道賛美の世界観が、昔から多くの人に愛好されてきた。詩情的な情景と人情的な展開のコントラストが絶妙なバランスの曲である。

次回公演の御案内

片山定期能4月公演
令和4年4月23日(土)
午後1時開演[午後0時30分開場]

能	「菊慈童」	梅田 嘉宏
狂言	「梟」	茂山 忠三郎
能	「百萬法楽之舞」	片山 伸吾

▽コロナ対策として必ずマスク着用にて御入場頂きますようお願い申し上げます。
▽ロビー等にての会話は極力お控えくださいませ。
▽出演者等の変更がある場合は御了承くださいませ。
▽見所内での録画・録音は固くお断り致します。
▽同じく見所内での携帯電話やスマートフォンは、必ず電源をお切り頂きますようお願い申し上げます。マナーモードも御遠慮くださいませ。

入場料

一般前売	3,500 円
一般当日	4,000 円
学生	2,000 円
回数券(四枚綴)	12,000 円

チケット取扱所

京都観世会館
9～17時　月休　075-771-6114
片山定期能楽会事務局
10～17時　土日休　075-551-6535

主催／片山定期能楽会
〒605-0088 京都市東山区西之町224
片山家能楽・京舞保存財団 内
tel.075-551-6535
fax.075-532-2841